

海月集

坤

1790-2 (濟)

俳諧資料力一卜

| | |
|------------|---------------|
| 年代 | 寛政2年 |
| 編者 (筆者) | 李英 印部 |
| 書名 | 海月集 坤 |
| 備考 | 美濃派 周 = 芝流 |

芝流 (下垣内蔵)

中心流利

西平. 山本流



吳市阿賀北五丁目三番八号
 下垣内和人
 電話〇八三三二七一九八番
 〒737

山
 仰
 或
 至
 止
 乃
 日
 鏤



牙柳

松くよきくおはあすし柳うらふ 日暮 幸狂

かよしよきくおはあすし 日暮 幸狂

松の香とほしく香るまふ思こく 日暮 幸狂

おの松中より松花ことまほしく 日暮 幸狂

仕どくく 日暮 幸狂

と大お中折る 日暮 幸狂

松樹大や清い 日暮 幸狂



松くよきくおはあすし柳うらふ 日暮 幸狂
 かよしよきくおはあすし 日暮 幸狂
 松の香とほしく香るまふ思こく 日暮 幸狂
 おの松中より松花ことまほしく 日暮 幸狂
 仕どくく 日暮 幸狂
 と大お中折る 日暮 幸狂
 松樹大や清い 日暮 幸狂
 松くよきくおはあすし柳うらふ 日暮 幸狂
 かよしよきくおはあすし 日暮 幸狂
 松の香とほしく香るまふ思こく 日暮 幸狂
 おの松中より松花ことまほしく 日暮 幸狂
 仕どくく 日暮 幸狂
 と大お中折る 日暮 幸狂
 松樹大や清い 日暮 幸狂

陸くのほれ摺きのうきし一ね 高野 如牛

をぬと森く舎く心をおき 如通 呂若

かろれ家し襟はく 高水 打成坊

くろし一や一およ 管口 登指

おろ目や 高野 茶桑

編福のき後より 高野 呂牧

のあり 高野 右采

梅法一いほ 高野 茶陽

本枯の吹 三

お梅や 三

高 加治田 子讀

高 士 琴

高 川辺 壺江

高 大井 桑

高 大井 高南

高 不 千

長ふさや大和ちるるは身 持京
 桑一ゆのるるさくさく 萩 権 貴之
 酔とのう強やちりり ぬれ月 夫石
 ちりりちやちりり 丹波の流んて身 采流
 明礼のほろろろ 流々木尻のむ 三流 必身
 夕暮やるるた 糸の一ぬ 飛よ 凡智
 ちりりちりり ちりり 流 鞍き 給 寧々
 ちりりち 佛 ちりりち ちりり ちりり 云替

日向 小治持ふりや ぎりの花 表佐 園流
 咄しく 給ゆり 深くちりり 川 大教 鳥曉
 けくしと 入かりり ちりり 甲子身 英江 卓流
 研きとれ 縁きとれ 不城 前 文在
 林のちや ちりり ちりり ちりり 中戸
 糸のちや ちりり ちりり ちりり 必身
 芥のちや ちりり ちりり ちりり 小海 昌流
 ちりり ちりり ちりり ちりり 去来 昌流

り葉やまゝしきくもあふくはうし ちほ

き月やゆくの澄れりしき 白田 白千

おのまはありしきを ねうえ 茶味

秋さしや指しきり 露のしと 百葉坊

氏名

何れかゝるはちきりきり 何我坊

ききんしきりあきりき 文狂

月のきりしきりあきり 少神 押市

晴れやしきりしきり 竹源

ききりしきりあきり 少神 板南

ききりしきりあきり 少神 茶亭

あきりしきりあきり 尼 二寺

あきりしきりあきり 少神 茶味

あきりしきりあきり 少神 茶江

あきりしきりあきり 少神 茶肯

あきりしきりあきり 少神 茶由

後の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは

上野

秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは

下野

秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは

常陸

秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは
秋の月や雲の如きと思ふは

甲斐

ふきのやぶの小道へ 弟の心 石芽

雲雨や流るる如く 雲の層 鼓水

駿河

己の心の中を 清く 善く 月葉

遠江

ほろほろ松と山を 抱きよ 白露

鳥籠や春の 流る 池 層 方壺

三河

河川勢を 守りて 後も 不^{西郡} 多^多 更

石や石の 隙を 山 伽藍 法 ^{西尾} 大 周

春を 又 喜まう 物 の 勝り ^{吉田} 不 孕

尾張

秋の 各所 松の ちりり 夕 鳥 ^{吉田} 也 有

ふきのやぶの 物も 流るる 雲の 層 石 之

鳥籠や 春の 流る 池 層 馬 古

埋火やうらぬくくきほ
河ふくまきと満るまのき
二柳

河代

年の暮れおくくくおの
不白

紀伊

程とくわりのきふりくくお
止

和号山

やうまのきき何きとまなき
紫牛

れき

各月や晴れふくくねの靴
産儀

ち部

陽やあまきふくく井前
八格

思

橋下

池月お雨前晴ふり市の旗
布舟

備前

晴るくく今くくあふね
松花

信中

あふくくあふりくくあふり
御光

備前

田井路のまゝくさの草
流しやうたへくさくさ
牛草

女體

そのおやえくさ田井路の草 可交

園防

をその甲くさくさ 壺外

細人の葉くさくさ 徳南

志くさくさの草くさくさ 草舟

長門

ゆきゆきくさくさくさくさ 其喜

約きれあくさくさくさくさ 右和

春くさくさくさくさくさ 右徑

夏くさくさくさくさくさ 菊谷

秋くさくさくさくさくさ 秋

山くさくさくさくさくさ 暮之

阿波

之養也 与 家 子 一 巨 柱 子 魯 書

多 氣 中 也 子 孫 生 一 一 皇 朝 中 行 者 皇 祚

頂 仰 小 人 亦 能 視 小 如 橫 小 如 皓

石 爲 中 也 子 孫 亦 能 視 一 一 皇 朝 中 皇 祚

亦 建 一 方 角 中 也 子 孫 亦 能 視 一 一 皇 朝 中 皇 祚

生 望 中 也 子 孫 亦 能 視 一 一 皇 朝 中 皇 祚

生 望 中 也 子 孫 亦 能 視 一 一 皇 朝 中 皇 祚

生 望 中 也 子 孫 亦 能 視 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

吾 吹 之 也 如 一 一 皇 朝 中 皇 祚

肥後

りまの伊ちろーゆき

吉原 鴨居坊

うたしおよまのりちやん

吉原 如作坊

お梅や新小海

又右

ちんちんちんちんちん

常盤

ちんちんちんちんちん

文之

ちんちんちんちんちん

兼地 茶巴

ちんちんちんちんちん

冬前

口向

梅下あさきさきさき

秋末

薩摩

ちんちんちんちんちん

薩摩 戸碎

ちんちんちんちんちん

薩摩 玉包

石見

ちんちんちんちんちん

石見 探殺

ちんちんちんちんちん

安房 野工

世にやたるといふは町をいふ
付 流

そらくと云ふはあやみやく
麦雨

あやみやく又かきやく
糸吹

出雲

船の敷あはれきり
栞 二

伯耆

平野やきよきよと云ふは
意家

但馬

一打と云ふはきよきよと云ふは
木印

丹後

祐平の積と云ふは
具取

きよきよと云ふは
馬吹

若狭

玉置と云ふは
小舟

越前

夕ぐれと云ふは
結阿瑠

飛弾

さきさきとてあつておぼろ

信濃

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

陸奥

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

出羽

あつたやらのしるしを

あつたやらのしるしを

今もあはれに思ふにまはれぬ母よ 二 涼

船中や何と云はるる一はのや 舟 凡 亦

あはれに思ふにまはれぬ母よ 猪 凡 柳

あはれに思ふにまはれぬ母よ 古 亦

あはれに思ふにまはれぬ母よ 古 亦

あはれに思ふにまはれぬ母よ 古 亦

あはれに思ふにまはれぬ母よ 古 亦

あはれに思ふにまはれぬ母よ 古 亦

あはれに思ふにまはれぬ母よ 中 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

あはれに思ふにまはれぬ母よ 亦 同

り此の清くも ありぬ 巨體より 新 京都

葉のむやみ ありぬ 所より 新 松

ひらきし ありぬ とき 新 有 院

ふらふら ありぬ 後の月 可 一

ふらふら ありぬ 井と 比 鳥

ふらふら ありぬ 今 号 文

ふらふら ありぬ 流 花

ふらふら ありぬ 石の 乃 古 宮

清くも ありぬ ありぬ 新 石

ありぬ ありぬ ありぬ 立 里 古

ありぬ ありぬ ありぬ 道 漢

ありぬ ありぬ ありぬ 古 大

ありぬ ありぬ ありぬ 古 大

ありぬ ありぬ ありぬ 古 大

ありぬ ありぬ ありぬ 古 大

ありぬ ありぬ ありぬ 古 大

紫の流を移りてはくしはくし
松和

巾の糸や夕暮の糸は市居り
松守

野の山や秋人思ふ又一羽
松守

細中や登るの道はつれづれ
季十

秋れどやきまはくはるのち
双喜

下も月まればさやうゆる
松史

早倉やまのこゝろと猪は
松鼠

栗のこゝろ一様の道は
松久

つれづれは秋子遠くを
鬼之四 鬼

松のこゝろはくしはくし
平治

月影の何れはのちや
乙守

つれづれは秋のち
松月

秋のちのちのちのち
松久

つれづれは秋のち
松久

つれづれは秋のち
松久

つれづれは秋のち
松久

修くくし 松打 明れ 秋のくれ 乙爾

高麗のまや 庭ふ ちやうと 升 芦帆

しりらまて 遠る ち食や 松打 東羽

升のふれ ちやうと ちや 明れ 杜夕

松月 ちやうと 月ふれ 雲の山 松中

まよふ ちやうと 松のま 雲英

細く 月沈より 松二日 吳字

まよふ ちやうと ちや 松打 實 善記

腹き ちやうと ちや ちや 松打 松

ちやうと ちや ちや ちや 東善

ちやうと ちや ちや ちや 杜之

何れ ちやうと ちや ちや 考巴

ちやうと ちや ちや ちや 成田 考巴

ちやうと ちや ちや ちや 清尚

ちやうと ちや ちや ちや 宇和

ちやうと ちや ちや ちや 清流

川名のよしとありし柳を 新記 杜裁

猿より下はみ下とり一とい 有老

園とわたりし。夏はそ柳の花 左月大山 子文

糸くさき香のきし 新記 文化

清き香や余れねと空よき妙を 貞吉

若かりしれ空捨てあり 祐也 怡夕

全

月止ししを 新記 縁あり月お水 春秋

夕立のふくを 新記 雨と 春止

心より 新記 ねのりし 春止

山崎や 新記 みる 春止

ふちれ 新記 みる 春止

路 新記 みる 春止

本祐や 新記 みる 春止

年 新記 みる 春止

遠 新記 みる 春止

うしや新極ふらぬまの孫 松野

りれ義や清院とるるう築地 うめ坊

障うううい 壺やほお月 其巾

おろりとりり筆う坂のらう松葉 遠方

こく吾れ所きうやうおの世 傍柜

川新りのあわううお堂うう 知先

え信くは、はらよりのも中野 岩津

高野場やううさうー山さう 夢文

あうはもぬううはけう 松の巻 梁城

あれまうや馬う極うまうお 片山家 ぬい

まやまううい やうお 岩戸 清い 雨夕

あれ場うまうれううう 栗おお 左羽

まの物や河原ううまうう山 松野

あはくやうううーううく半の靴 其管

あううううううう又あううう 鳥居む 鳥居

あうあうやうあううう 松戸 ぬ静

月の門や葉舟のしづかに
 揚ひるりあらはるる
 船のしづかに
 晴あけぬ梅の葉や
 夕日けを
 雲すくもたれ
 明月や何と
 葉舟
 市仙
 東縁
 左菊

ねるる影れさるる
 雲月や遠空はく
 あくちや空の
 楓のしづかに
 山はれ梅の
 出女のしづかに

新境

雨あけ
 新境
 風如坊

河津の春と暮と月と中 行衣 季考

染ぬやる一物と暮く垣の紫 月福

酒とのや暮りゆく暮く市の暮 瑞夕

早お暮よるよ少お吹く風よ暮 志舟

十月やおよるよ暮の暮 野川

寝おや老傍より暮はる暮 係之

ちるおおや布へ寝ねるよ暮吹く 少之 暮四

おねや暮りゆく暮の暮 暮二 暮

あつらや暮るよ暮と暮 暮雨

寝るよ暮行る月よ暮九以けよ暮 暮里

おねらおやあぬむいてアくねの暮 針村 暮柳

あはるよ沖へけよ暮焼ゆる暮 中坊 暮吉

あつらよ暮よるよ暮の暮 暮吉

あつらよ暮よるよ暮の暮 水濱

暮よるよ暮りて暮を暮佛よ暮 暮之

暮よるよ暮りて暮を暮佛よ暮 暮之

あはれあはれとてささふ 藤の卯 病十

あはれやうきうき 藤の卯 二ふらくれ 王女

あはれおはに 二あはれささふやまきり 花桐

あはれささふ 仙人もあひ 菊の卯 三東 山

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

あはれささふ 山のかみ 藤の卯 藤志

春

三

振所

鳥旭

懐ふやまの月をうらなひ給
鎌倉 東正坊

時経ふさかぬとて
吉田 風流坊

うらなひの目も甲く千有る
是 道成坊

今一丈ちりぬとて
鎌倉 風流坊

寄れ後むも
藤原 坊二

洲や小坂下は
小吉 花

嘆そく心
藤原 小

さかしくとも
菅原 似

船おたの浦へ上り
花の白 老

むと教へ
可

時りあはさ
善

活か
山

寄のる尾むの
民

寄れむ久
有

ささ中
は

あまや
人

夕了ありと東御一々 翁鹿 尾 負渡

白小草の経年一巻の巻に巻く 二 猿真

あつたきい草の巻に巻く 二 二仏

甲くねるい深るのや夕 大々 桐丸

半町一丁と 雙味 可中

梅里や 急 急仙

おれじや 鬼 鬼白

翁考や 持不 可耕

おんて 小 小井

うら 堤 堤神

結 不 不及

お 信 信界

お 為 為十

善 赤 赤月

種 故 故

勝 流 流

淡雪やまゝに ほんまにわさのよ 行ふ

高きよきう ぼんぼり 暮れぬ 中

淡雪し又 ぼんぼり ちる 可也

ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 月 杜仙

あゝまゝ ぼんぼり ぼんぼり 山 花和

雪やまゝ ぼんぼり ぼんぼり 山 音

薄れ ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 音

有月や ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 有暇

雪一ね ぼんぼり ぼんぼり 大津 其里

薄れ ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 梅交

ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 梅奥

風や ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 生交

雪や ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 文七

其の ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 子柳

竹の ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 梅田

まゝ ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり 梅原

何れも夕日、暮れに宿尾を

松子流すて居るにやの氣もあま

あまや箱白捲てるの若

あまや一ぬきし一入るめく

神も色のりし山あしむれ

松陰へ空より下りてあま

あまふあまや持れはほい

あまふ除きとまきしや

あまふあまはほい

あまふあまはほい

あまふあまはほい

あまふあまはほい

あまふあまはほい

あまふあまはほい

あまふあまはほい

あまふあまはほい

今部一擧と稱し、
 清世のまねの
 昔、漢元と稱し、
 今部一擧と稱し、
 清世のまねの



古本所
 橋本浩三蔵

